

# 河川環境管理財団ニュース

News Letter from Foundation of River & Watershed Environment Management

ニュースの項目

何故、多様なもの？

「流水・土砂の管理と河川環境の保全・復元に関する研究」始まる

「21世紀の社会システム、国土管理のあり方に関する研究会」開催される

淀川における河川環境の整備と保全に向けた取り組み

世界子ども水フォーラムの取り組みについて

「久慈川たんけん隊」を開催

「子どもの水辺サポートセンター」の活動について

「多摩川源流教室」丹波山村で開催

第9回 河川整備基金助成事業成果発表会の開催

河川整備基金事業「自然的攪乱・人為的インパクトと  
河川生態系に関する研究」成果発表会の開催

寄附行為の変更について

第22回 川の写真コンクール表彰式及び展示会の開催

「網走湖シンポジウム」が開催されます

財団の体制

# 河川環境管理財団ニュース

News Letter from Foundation of River & Watershed Environment Management

## 何故、多様性なの？

私が河川局長を在任していた3年間は、河川環境行政が大きく躍動している時期であった。各課の職員が「河川の自然環境の多様性」の案件で何回も私の部屋に来た。自然環境の多様性について相談をして、議論をして、新しい方針や政策を決定した後、私は彼らに質問した。その質問は「何故、河川環境の多様性が必要なのか？何故、自然の多様性が必要なのか？」という問いであった。

この質問は部下が退席する直前にした。環境多様性への前向きな姿勢を決定した後の質問であった。議論の途中でこの質問をしてしまうと、私が自然の多様性について後ろ向きな姿勢を持っていると思われたら困る。もし、職員達が部屋へ戻ってから「おい、局長はこれに疑問を持っているぞ！」と言われたら大変なことになってしまう。

職員たちが河川環境の多様性に向けて少しでも萎縮し躊躇してはいけない。自然環境の多様性は大切でそのための政策を進めて欲しい。

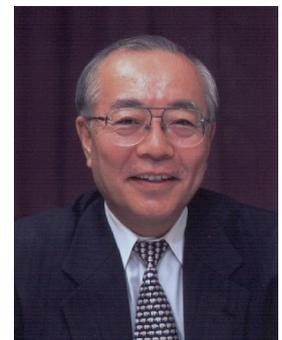
でも何故、多様性が必要なのだろうか？私は以前からこの問を自分自身に投げかけていた。だから本気で彼らにも質問をした。決して部下を冷やかしたのではなかった。この質問に対する模範解答を私も一応は知っていた。

その模範解答とは「人間も動物である。全ての生物は多様な自然環境の中でしか生き残れない。人間が生存していくために、自然の多様性はなくてはならない。」

質問された職員達も、次に部屋に来る時にこの模範解答を持参してきた。でも、この解答はイデオロギーの臭いがする。イデオロギーは体質的に合わない。私は部下に「その答えは私の心を打たない。」と言い放ってしまった。それ以降、誰もこの件で私に言葉をかけてくれなかった。

私は河川局長の職にある間、国会をはじめさまざまな

場で河川環境の多様性のための政策を主張した。その一方で「何故、自然の多様性が必要なのか？」という疑問を心の中で抱え続けていた。そして、その答えを見つけられないまま退官した。



今年の8月、自然保護と復元に真摯な努力をしている専門家とお会いする機会があった。屈託のない朗らかな会話に誘われてついこの質問を投げかけてしまった。またあの模範解答が返ってくるのかなと思っていた。

その専門家はきょとんとして、なぜ私がそんな質問をするのが不思議だったようだ。返ってきた答えは簡単だった。「自分が感動したいから」であった。

その言葉は、ストーンと音をたてて私の胸に落ちていった。「そうか、感動するための自然の多様性なのか！」

私達は都市に住んでいる。この都市では全てが計画され制御されている。この都市では自然は排除され、一糸の乱れもない。少しでも乱れがあると大騒ぎになる。

乱れがない空間と時間に揺らぎはない。揺らぎがなければ感動はない。乱れの中で感動と出会う。

その乱れは均質性からは生まれない。多様性から生まれてくる。

自然の多様性を大切にする動機は単純なことなのだ。それは自分自身の感動を大切にしていくこと。

私もこれから自分自身の感動のために、自然の多様性を愛していこう。今このような思いで新しい人生に向かっている。

河川環境管理財団 顧問 竹村公太郎

## 「流水・土砂の管理と河川環境の保全・復元に関する研究」始まる

河川は、流水および土砂の堆積・侵食により絶えず攪乱が生じ、ダイナミックな変動を受けている場です。河川環境の保全・復元にあたっては、この河川本来のダイナミックな変動性と河川環境の連関性を把握し、それに基づいて保全・復元することが求められています。

本研究は、河川流域全体の視点から河川のダイナミズムを取り戻す方法をさぐり、河川環境の保全・復元技術に活かすことを目的としています。調査フィールドは淀川を主なものとし、それに加えて各地で行われた河川環境保全・復元手法を集約、評価し、上記研究に役立てます。

研究は河川整備基金事業で実施し、村本嘉雄京都大学名誉教授を座長とする学識者13名からなる研究会を組織し、平成14年度より2ヶ年の予定で進めることとしています。（担当：研究第1部、大阪研究所）

## 「21世紀の社会システム、国土管理のあり方に関する研究会」開催される

わが国が持続的に活力を維持しうる水に関連した社会システムのあり方を検討するため、「21世紀の社会システム、国土管理のあり方に関する研究会（座長：丹保憲仁放送大学学長）」が去る9月6日に開催されました。

この研究会は健全な水循環を構築し、物質・エネルギー循環の適正化の必要性を広く国民に示すことにより、水分野が21世紀における新たな循環型社会システム・国土管理へのフロントランナーとなることを目標とし、急激な経済発展が予想され、降雨特性等もわが国と類似性を持つ東南アジア各国への社会システム提案にも資するためのものです。

今後研究会において更に活発な議論が行われる予定です。（担当：研究第2部）

## 淀川における河川環境の整備と保全に向けた取り組み

淀川では平成9年8月より、河川管理者に河川環境の整備と保全に必要な助言を行うことを目的とした「淀川環境委員会（会長：芦田和男、事務局：河川環境管理財団）」が設置されており、具体的かつ適切な検討・助言を行っています。

当委員会では、淀川の現状や河川環境の保全に向けた様々な検討を踏まえて、平成14年3月に淀川の河川環境の整備と保全の基本方針と具体的対応について「自然豊かな淀川をめざして」（提言）としてとりまとめました。

淀川工事事務所では、河川環境の復元・保全を図る際の根本的な考え方をこの提言に準拠することとしています。自然再生事業の対象候補である鶴殿地区では、この考え方を基とし、ヨシ

を中心とした湿生植物群の回復を図っており、今後は汽水域における干潟の回復や淀川の象徴でもあるワンド群の保全検討も順次進めていきます。（担当：大阪研究所）

## 世界子ども水フォーラムの取り組みについて



湖岸で洗い物をするマラウイの子どもたち  
（アフリカ・マラウイにて/  
嘉田 由紀子）

2003年3月に京都・滋賀・大阪を会場として「第3回世界水フォーラム」の開催に合わせて、世界子ども水フォーラムが開催されます。

世界子ども水フォーラムでは、次代を背負う日本国内や世界各地から100名の子どもたちが集い、世界の水問題や水への思い等を話し合い交流を深めます。ここで話し合われた内容は、同時開催の第3回世界水フォーラムへ子どもからの提案として報告されます。

当財団では、世界子ども水フォーラムの事務局として開催準備を進めており、10月16日「世界子ども水フォーラム実行委員会」を設立しました。今後、この実行委員会を中心として開催に向けてさらに具体的な取り組みを行って行きます。

開催日時：2003年3月18日～22日

場 所：京都会場を中心に滋賀、大阪の各会場

主 催：世界子ども水フォーラム実行委員会（議長：安藤 忠雄  
（東京大学教授）・キャロル・ペラミー（ユニセフ事務局長）

事 務 局：河川環境管理財団

（担当：研究第1部 小川）

## 「久慈川たんけん隊」を開催

「久慈川たんけん隊」は、久慈川河川整備計画の策定の一環として、地域の人々と一緒に、実際に久慈川の姿をよく見て、久慈川に関する正確な情報を共有し（「たんけん」して）、共通認識を深めた上で、「将来の久慈川の川づくり」について、意見交換を行うことを目的としています。隊長（講師）には、久慈川に深い知見を有する地域の有識者を迎え、毎回25名の隊員を公募しています。

たんけん隊のテーマは、「久慈川の姿と自然」、「久慈川の治水と利水」、「久慈川の水源と清流」、「久慈川の身近な自然」、「久慈川の恵みと生活」としました。第1回を7月に開催し、月1回のペースで合計5回の「たんけん」を行い、12月頃に総括意見交換会を行う予定です。

地域の意見を整備計画（案）策定のための検討に反映させるとともに、協働のしくみづくりについても共に考えていく予定です。（研究第3部）

## 「子どもの水辺サポートセンター」の活動について

### 教育ソリューションフェアに出展

8月5日から7日までの3日間、日本教育新聞社主催の教育ソリューションフェア（横浜パシフィコ）に出展し、サポートセンターの活動内容の他、各省や関連団体の支援方策、副読本の展示など、具体的な取組みの状況を教育関係者に紹介いたしました。展示ブースには多くの人々が訪れ、先生方からは貴重なご意見・ご要望や今後の活動に対する期待が数多く寄せられました。

### 川を活かした環境学習・体験学習に関する全国事例研修会を開催

全国で行われている川を活かした環境学習や体験学習の事例紹介、地域連携の取り組みなど、各教育現場で必要な情報を提供し活用していただくことを目的に、8月22日から23日の2日間、幕張メッセにて開催いたしました。

延べ約300人の参加を得て活発な質疑応答などが行われ、河川管理者・教育関係者・市民団体等の連携による水辺環境教育のより一層の推進を図り、また新しい時代の要請に応えられる研修会となりました。

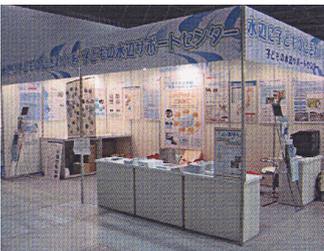
今後とも各種講習会、研修会などの開催を通じ、「水辺に子どもたちのにぎわいを」の実現をめざして、川の持つ「魅力」や「感動」を共有し交流を深め、「川に学ぶ」姿勢を大切にしていきます。

子どもの水辺サポートセンター

TEL:03-3297-2608 FAX:03-3297-2677

URL: <http://www.mizube-support-center.org>

E-mail: [mso@mizube-support-center.org](mailto:mso@mizube-support-center.org)



教育ソリューションフェアの出展状況  
(横浜パシフィコ)



川を活かした環境学習・体験学習に関する全国事例研修会(千葉幕張メッセ)

## 「多摩川源流教室」丹波山村で開催

河川とのふれあい活動の一環として毎年開催されている「多摩川源流教室」が、多摩川源流の丹波山村で8月21日多摩川流域在住の親子連れ39名の参加を得て開催されました。

「多摩川源流教室」は多摩川流域協議会が主催し、夏休みを利用して多摩川の源流域を訪ね簡易水質検査・水生生物調査等を行い川との触れ合いの実体験を通じて、多摩川に対する関心を高めてもらおうとするものです。

今年は、「ライフジャケットを用いた川下り」の発案者である山梨大学川村教授及び同大学のインストラクター、地元丹波山村等のご協力をいただき、川下りが実施されました。

当日はさすがの猛暑も和らいだ清流の中、子供達は、青い山々をバックにライフジャケット2個を上下に着用し、清流に身を任せ心から大自然を満喫していました。

又、川下りのあとは丹波山村温泉の「のめこい湯」で冷えた体を暖め、参加した子供達は大満足の様子でした。

(担当：東京事務所)



「お魚になった私」



## 第9回 河川整備基金助成事業成果発表会の開催

河川整備基金助成事業成果発表会は、助成事業の成果が、出来るだけ多くの関係者の方々に共有の財産として広く活用されるとともに、助成事業の一層の充実に寄与することを目的に開催されています。

発表会は、これまで平成5年度から平成13年度までに8回行われており、いずれも多数の方々の参加をいただき、発表者と活発な意見交換により大変有意義な会となっています。

本年度も10月30～31日にダイヤモンドホテル（東京都千代田区一番町25）において第9回河川整備基金助成事業成果発表会を開催することとしております。

皆様のご参加をお待申し上げます。(参加無料)

10月30日(水)

1. 川の生態環境に関する調査・研究  
座長 名古屋大学 辻本哲郎教授
2. 水環境に関する調査・研究  
座長 山梨大学 砂田憲吾教授

10月31日(木)

3. 指定課題助成研究  
司会 (財)河川環境管理財団 山本晃一研究総括職
4. 川と地域社会に関する調査・研究  
座長 立命館大学 江頭進治教授
5. 子どもの水辺に関する実践活動  
座長 富士常葉大学 山田辰美助教授

(担当：研究第1部 今井)

## 河川整備基金事業「自然的攪乱・人為的インパクトと河川生態系の関係に関する研究」成果発表会の開催

本研究は、河川整備基金事業により、平成12年度から2年間にわたり、河川本来が持つ自然的攪乱と河川流域の人間活動による人為的インパクトが、河川生態系の構造と変動形態に与える影響およびその諸要因間の相互作用等について検討を実施し、その成果報告書を取りまとめました。

この度、本研究成果を広く活用していただくため、11月15日(金)にダイヤモンドホテル（東京都千代田区一番町25）において成果発表会を開催します。(参加無料)

なお、これら発表会の詳細については、インターネットホームページによりお知らせいたします。(担当：研究第1部)

### 寄附行為の変更について

当財団寄附行為第4条の一部が変更され、平成14年6月26日認可されました。下記アンダーラインの部分が変更されました。

(事業)

- 第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- (1) 河川環境の整備と保全及び河川の利用に関する総合的な調査研究
  - (2) 河川の自然環境の保全に関する調査研究
  - (3) 河川の水環境の保全に関する調査研究
  - (4) 河川環境に資する河川の維持管理に関する調査研究
  - (5) 公園、緑地、運動場等の整備及び維持管理
  - (6) 河川環境教育の推進
  - (7) 河川愛護思想の普及及び啓発
  - (8) 前各号に関する事業の受託
  - (9) 河川管理者が行う環境整備及び維持管理に関する事業の受託
  - (10) 河川の美化に関する事業
  - (11) 河川、ダム等に関する調査・試験・研究への助成等を行う河川整備基金の造成、管理及び運用
  - (12) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

### 第22回 川の写真コンク - ル 表彰式及び展示会の開催

川の写真コンク - ルは、河川愛護の思想を広く一般の方々に啓発するため、河川愛護月間行事の一環として、昭和56年を第1回として開催し、今年で第22回を迎えることになりました。

主催は、国土交通省関東地方整備局と(財)河川環境管理財団で、次世代を担う関東地方の小、中、高校生を対象として「河川の写真」を広く募集し、写真家の長野重一氏、福島武氏及び佐々木崑氏の方々に審査をして頂いております。

応募作品数は、5,051点と回を重ねるごとに増加してきております。

なお、この行事の実施にあたっては、管内の都県教育委員会、読売新聞社、NHK、コダック(株)を始め関係の方々のご理解とご協力を頂いております。

これからの予定は、次のとおりです。

- ・表彰式 11月10日(日) 新宿NSビル3階ホ - ル
- ・展示会 11月10日(日)～13日(水)  
JR東京駅丸の内北口ドーム  
翌年2月8日(土)～3月2日(日)  
さいたま川の博物館  
翌年3月15日(土)～30日(日)  
霞ヶ浦ふれあいランド

また、来年も素晴らしい数多くの作品が、寄せられることを期待しております。(担当：東京事務所)

### 「網走湖シンポジウム」が開催されます

網走湖シンポジウム(北海道開発局網走開発建設部主催)が、平成14年10月27日午後1時から、網走市オホ - ツク・文化交流センターにおいて開催されます。

昭和62年に網走湖で初めて青潮発生が確認されて以来、網走湖水質保全対策検討委員会にてアオコを含む水質障害の改善に向けた検討が行われ、平成14年3月「網走湖の水質保全に関する提言」がまとめられました。

本シンポジウムは、網走湖の現状を流域住民にお知らせし、今後の水環境回復の取り組みに対する理解を深めていただくために開催するもので、基調講演(柳生博氏)、網走湖の紹介、パネルディスカッションの3部構成となっております。

多数の皆様のご参加をお待ちしております。(担当：北海道事務所)

### 財団の体制

現在の体制は下記のとおりです。  
今後ともよろしくお願い致します。

理事	和里田 義雄
常務理事	池田 東雄
常務理事	白井 顕一
理事	仁科 英麿
理事	藤 芳 素生
相談役	梅野 康行
顧問	竹村 公太郎(明就任)
研究顧問	吉川 秀夫
研究顧問	芦田 和男
研究顧問	江川 太郎
研究顧問	佐々木 寧
研究顧問	山口 甲
研究嘱託	中島 秀雄
研究総括	山本 晃一
技術参与	佐藤 和明
総務部長	松下 寿彦
企画調整部長(兼)	白井 顕一
河川環境総合研究所長(兼)	芦田 和男
研究第1部長(兼)	藤 芳 素生
研究第2部長	岸 田 弘之
研究第3部長	赤 羽 忠志
研究第4部長	戸 谷 英雄
研究第5部長(大阪研究所長)(兼)	芦田 和男
子どもの水辺サポートセンター長(兼)	藤 芳 素生(明就任)
東京事務所長(兼)	戸 谷 英雄
北海道事務所長	吉岡 紘治
名古屋事務所長	三日市 吉朗
大阪事務所長	阪本 信弘

編集  
発行



財団 河川環境管理財団  
法人

編集会議事務局  
03(3297)2617

インターネットホームページ  
http://www.kasen.or.jp/

本部・東京事務所 〒104-0042  
東京都中央区入船1-9-12  
TEL 03-3297-2600 FAX 03-3297-2620  
E-mail: info@kasen.or.jp

大阪事務所 〒570-0096  
大阪府守口市外島町4-18(守口フィットネスリゾート内)  
TEL 06-6994-0006 FAX 06-6994-0095  
http://www2.kasen.or.jp/  
E-mail: kohens@osakaj.kasen.or.jp

北海道事務所 〒060-0061  
札幌市中央区南一条西7丁目16-2(岩倉ビル)  
TEL 011-261-7951 FAX 011-261-7953  
http://www.kasen.or.jp/hokkaido/  
E-mail: info-h@hkd.kasen.or.jp

河川環境総合研究所 〒104-0042  
東京都中央区入船1-9-12  
TEL 03-3297-2644 FAX 03-3297-2677  
E-mail: info@kasen.or.jp

名古屋事務所 〒450-0002  
名古屋市中村区名駅4-3-10  
TEL 052-565-1976 FAX 052-571-8627  
http://www.kasen.or.jp/nagoya/  
E-mail: info-n@nagoya.kasen.or.jp

大阪研究所 〒540-0008  
大阪市中央区大手前1-6-4(はなビル7F)  
TEL 06-6942-2310 FAX 06-6942-2118  
E-mail: info-o@osaka.kasen.or.jp